

1. 新世言「大目標と心のスタンス」丸山敏秋 倫理研究所理事長 64歳 (P10~13)
目的があるから目標がはっきりします。そして、目標を立てるから目的が実現して行く。では教育の目的とは何でしょうか？その一つに「自分のためだけではなく、人のために社会のために、喜んで働ける人間を育てる」という目的があるでしょう。一つ大きな目的、大目標を描きましょう。倫理運動を提唱した丸山敏雄は、夏の暑い日に乾いた道路に水を打っていた若者に「水を打つのも世界平和のためになる」と教えた。大目標を掲げること躊躇する必要はない。それは、前途に希望の^{きまぐら}炬火を掲げるのと同じである。ささやかな日常の行為でも、これが複雑に絡み合った世の中でいつか大目標に繋がっている、と自覚してやっていたら張り合いが生まれます。

2. エッセイ・明日へのエール「朝起きは再建の第一歩」三浦貴史 45歳 (P30~33)
古くから「早起きは三文の徳」「早起きは健康を保ち、仕事や勉強が捗る」と言われてきました。倫理研究所では約70年前から、早朝の勉強会を開始しました。朝起きる意義とは？その源流を辿ります。その始まりは、昭和24年4月1日、創立者が「明日6時から『朝起会』を自宅で始めるから皆出席するように」と所員に発表。この日から約1か月後の5月12日に「万人幸福の葉」の全文が出来上がりました。この葉の17箇条は、創立者の学術的研究と宗教的修行も含めた厳しい修養の果てに見出されたものです。

3. 実践の軌跡「95歳の姑の笑顔、それが私の幸せ」野原ミツさん 69歳 (P38~45)
嫁と姑の確執は、いつの時代もどこでも存在するものです。その一つの原因は、これまでの経験から培われた価値観の相違でしょう。純粹倫理では、嫁の育った生家を苗代、婚家を水田に喩え、これを「つぎ穂の倫理」と言います。嫁はしっかりと嫁ぎ先に繋がってこそ婚家先の繁栄があるのです。長女の流産の^{おそれ}虞と、長男の結婚に関するの悩みにより、しっかりと嫁ぎ先に繋がること、姑との交流を深めることができ、全て良好になりました。

4. 実践の軌跡「亡き母に誓う、社業の発展」城伸幸さん 58歳 (P46~53)
突然、父親に社長職を解任され、独立を余儀なくされました。一族経営で会社を継承する時は、ともすると親子の確執が表面化します。城さんは倫理指導を継続して実践することにより、心の中で父の心情を受け止めずに経営方針を定めたり、経営再建のためにと何の相談もしなかったことなど、傲慢な自分の姿に気づきました。今後は和解を超え、深く共感しあい、家族の絆を深めて、長男として亡き母が喜んでくれる働きに徹します。

5. わくわく子育て親育ち「子育てを通して親自身も成長しよう」吉川^{52歳}・小川^{45歳}・内田^{35歳}各研究員 (P54~59)
・子供が、スマホやゲームに夢中になることは、もっと繋がりたいという、満たされない思いがあるのでは。
・子供に何らかの問題が起きたときは、必ず親である夫婦に修正すべき点があります。
・親は自分の役割を認識して、今この場、この仕事に全力を尽くす。その姿勢は我が子に必ず通じます。
・妻を第一に、子供を一人の人間として尊重して、子供の話をかきちんと聞きましょう。
・私は子供の親である前に、妻の夫であり、自分自身の両親の子供です。命の根本を畏敬して、祖先に繋がる。

6. 収納術「整頓されたリビングは、快適な生活に繋がる」 (P64, 65)
収納で意識すべきことは「人は面倒なことは続かない」「見えていないものは存在すら忘れる」ラクに見える・出せる収納が重要です。適した位置、適した入れ物が揃わなければ、一旦きれいに片付いていても、また崩れる。

7. 古典を旅する「芭蕉・旅に生きた俳人」能楽師・安田登氏 61歳 (P72~75)
松尾芭蕉は俳句の人ではありません。「^{はいかい}俳諧」の人です。俳諧は、誰かが詠んだ五七五に、次の人が七七と付け、また次の人がその七七に五七五と付けていくものです。最初の五七五を「発句」といい、これが独立して俳句になった。ちなみに最後の七七は「拳句」。「優雅な貧乏生活」それが芭蕉が目指した俳諧生活です。